

Webサイトのユーザビリティチェックリスト ～全般編～

Webサイトを構築する上で、気を配るべきユーザビリティのポイントです。

この中で、いくつ実現できていますか？

No.	テーマ	詳細/理由/あるべき姿/解説	チェック
1	ユーザーにして欲しいことは、繰り返し載せる	Webサイトにとって、ユーザーとの接点は画面UIのみ。サイト側がユーザーに「して欲しいこと」がある場合は、適切なタイミングでその行動に移れるよう、動線を最適化すべきである。 また、繰り返しユーザーに提示することで、そのページが何のためにあるのかを認識してもらうのにも役立つ。	<input type="checkbox"/>
2	選択肢を提示した場合、おすそめを明記する	識者、つまりはコンテンツ提供者側がおすそめを提示することで、ユーザーは選びやすくなる。 これは、おすそめを選ぶようになる、という意味ではなく、おすそめという選択肢を手掛かりに、他の選択肢との比較をユーザー自身がやりやすくなる、というメリットもある。	<input type="checkbox"/>
3	カラム数は極力減らし、できればワンカラムでUIを構成する	左カラムにメニュー系、真ん中にメインコンテンツ、右カラムはページ関連要素（リンクなど）と広告系・・・と配置してしまいがちだが、カラムが複数あるとユーザーの視線が左右に散ってしまう。できるだけコンテンツに集中できる構成が望ましい。	<input type="checkbox"/>
4	機能的に似ているものは、ひとつにまとめる	似ている情報、同じ情報は、分散させずまとめた方がユーザーにとって認識しやすく、理解が早い。特にメニュー構成などでは、これを意識すべき。	<input type="checkbox"/>
5	「ユーザーの声」を掲載する	サイト側（コンテンツ提供者）からの一方的な情報提供だけでなく、実際のユーザー声を掲載すると、読み手にとって信頼度が高まる。	<input type="checkbox"/>
6	誰のためのサービスであるかを明確にする	Webサイトである以上、「みんなのため」であることは自明であるので、その中でも見ているユーザーにとって「あなたのため」と感じられる情報を掲載することで、信頼度が増す。	<input type="checkbox"/>
7	訴求文章では、疑問形ではなく言い切り型で良さを伝える	「〇〇でお困りですか？」などの疑問形では、結論をどのようにでも捉えることができ、頼りない印象を与えかねない。「〇〇に△△で役立ちます！」など、言い切ることで、ユーザーに頼れる存在であることを伝えられる。	<input type="checkbox"/>
8	サービスや製品を掲載する際は、どこで作られたものであるかを明確にする	どこで作られたものかを明かすことで、ユーザーに安心感を与えられる。これは、非Web空間で製品やサービス、特に食品などに触れた場合と同じ感覚である。	<input type="checkbox"/>
9	ユーザーが見ている情報にとって「余計な情報」となるリンクは載せない	コンテンツと関係のあるリンク以外は文末にまとめる等、ユーザーが目移りしないよう配慮する。	<input type="checkbox"/>
10	アニメーション、トランジションを適切に取り入れる	動きを付けることでユーザーに注目させ、操作を促す、あるいは操作を想起させることができる。ただし、多用は禁物。	<input type="checkbox"/>
11	ユーザーに、登録なしにサービスを体験してもらう	サービスの良さを伝えるには、実際に使ってもらうのが一番の方法。サービスの一部でも、お試しとして体験ができる仕組みを用意すると良い。その際、会員登録などの登録作業なしに体験ができることが望ましい。（その登録を煩わしく感じて離脱しては意味がないため）	<input type="checkbox"/>
12	できる限り枠線を減らす	枠線が多すぎると、ユーザーはどこを見てよいのかわかりづらい。（枠線は予想外に目立つため） 情報として区画整理が必要な場合は、枠線や罫線は控え、背景色で工夫する等が良い。	<input type="checkbox"/>
13	機能ではなく、体験して得られるメリットを伝える	サービスや製品を作った側からすれば、「機能」を自慢したいところだが、ユーザーにとっては「その機能を使ってどのような体験ができるか」の方が興味がある。機能説明に終始せず、どんなことができるのか、どう今より素晴らしいかを伝えた方が良い。	<input type="checkbox"/>
14	選択肢がある場合は、最初から提示しておく	クリックして選択肢が表示される・・・といったデザインは、一見するとシンプルではあるが、ユーザーにとっては1クリック分余計に行動しなければならず、面倒だと感じて離脱が増える可能性がある。 （例）他のページへのリンクなどはコンボボックスで表現したりせず、すぐに押せる状態にしておく、等。	<input type="checkbox"/>
15	代表的なUIを使う	メニュー等は、たいていのユーザーは他のサイトやアプリを経験して左上あたりであることを知っている。こうした、ユーザーが「当たり前」と感じるようなUI、配置を採用することで、ユーザーのミスを防止できる。	<input type="checkbox"/>
16	サービス利用開始時のことを考える	利用開始した時点では、そのユーザーの情報は何も無いところから始まる。データが0件の場合のユーザーの動線、何をすべきなのか、などを考えて構成する必要がある。	<input type="checkbox"/>
合計			

0～6	ユーザビリティに関する配慮が足りていません。ユーザーのことをもっと考えましょう！
7～12	Webサイトにおける基本的なユーザビリティは確保されているとお見受けします。ただ、まだまだ改善できるところはありそうです。
13以上	ユーザビリティに対する理解があり、Webサイトとしての完成度も高いようです。

クレスコでは、このチェックリストよりもさらに詳細な観点から、
ユーザビリティ診断も実施しています。お気軽にご相談ください。